

Google OAuth 2.0 Client ID発行手順

RCMSではアクセス解析のために、GoogleAnalyticsのコードを自動で埋め込むための、『GoogleAnalyticsモジュール』を用意しております。

本マニュアルでは『GoogleAnalyticsモジュール』に設定する、Googleの『OAuth 2.0 Client ID』の発行手順をご案内します。

※Google側の仕様の変更により、本マニュアルとは異なる箇所がある場合がございます。

1. Google APIs consoleにログインする

Google APIs ConsoleにWebブラウザでアクセスします。

<https://console.developers.google.com/>

① ダッシュボードからプロジェクトの作成をします。



② 要求された情報を入力し、「作成」を押します。

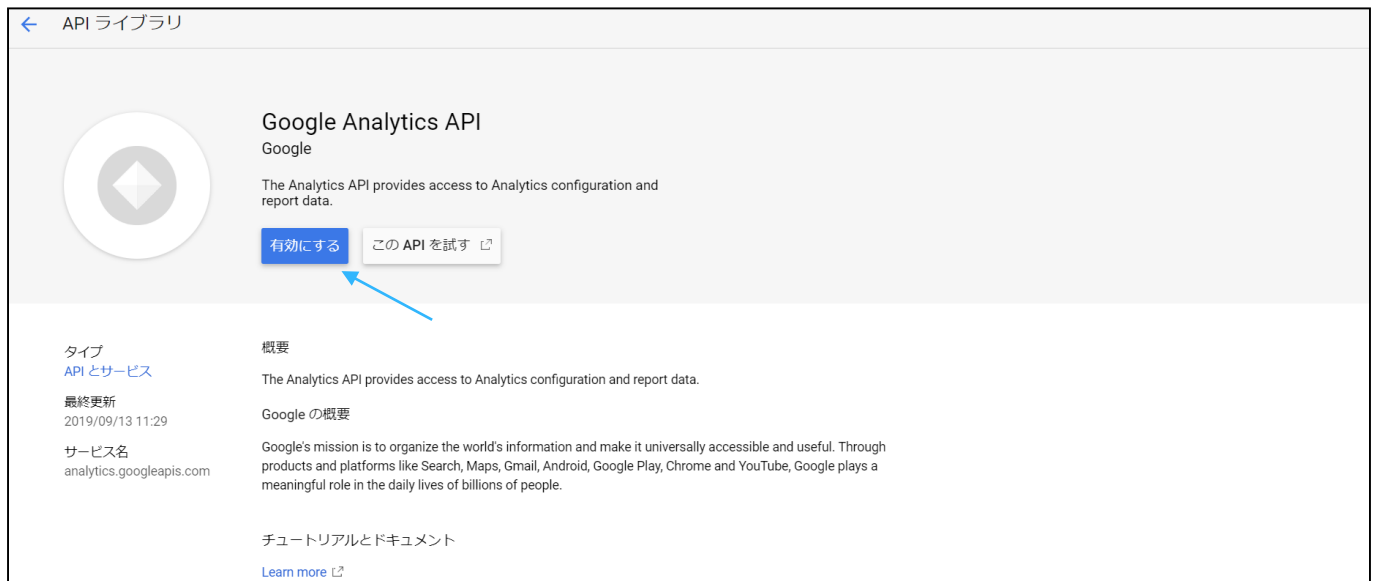


2. Analytics API を ON にする

① ダッシュボードから「APIとサービスを有効化」をクリックします。



② Google Analytics APIを探して有効にします。



3. OAuth 同意画面を作成する

① Oauth 同意画面で必要情報を入力し「保存」を押します。

API とサービス

ダッシュボード

ライブラリ

認証情報

OAuth 同意画面

ドメインの確認

ページの使用に関する契約

OAuth 同意画面

ユーザーが認証を行う前に、この同意画面では、プライベートデータへのアクセス権を付与するかどうか、また利用規約とプライバシー ポリシーへのリンクを付与するかどうかをユーザーが選択できます。このページでは、このプロジェクトのすべてのアプリケーションの同意画面を構成します。

確認ステータス

非公開

アプリケーション名

同意を求めるアプリの名前

アプリケーション名

アプリケーションのロゴ

ユーザーがアプリを認識しやすいよう同意画面に表示される画像

アップロードするローカル ファイル

参照

サポートメール

ユーザー サポートに関する同意画面に表示されます

Google API のスコープ

スコープを設定すると、アプリケーションはユーザーのプライベートデータにアクセスできるようになります。 [詳細](#)

カレンダーやドライブへの完全アクセス権を付与するスコープなど、プライベートデータにかかわるスコープを追加する場合は、スコープの公開前に Google が同意画面を確認します。

email

profile

openid

スコープを追加

承認済みドメイン

デベロッパーとユーザーを保護するために、Google では、OAuth を使用して認証するアプリケーションのみに承認済みドメインの使用を許可しています。アプリケーションのリンクは承認済みドメインでホストされている必要があります。 [詳細](#)

example.com

ドメインを入力し、Enter キーを押して追加します

[アプリケーション ホームページ] リンク

同意画面に表示されます。承認済みドメインでホストされている必要があります。

https:// または http://

[アプリケーション プライバシー ポリシー] リンク

同意画面に表示されます。承認済みドメインでホストされている必要があります。

https:// または http://

[アプリケーション 利用規約] リンク (省略可)

同意画面に表示されます。承認済みドメインでホストされている必要があります。

https:// または http://

保存

確認のため送信

キャンセル

同意画面について

同意画面は、誰がどの種類のデータへのアクセスをリクエストしているのかを表明する画面です。

OAuth の確認

デベロッパーとユーザーを保護するために、同意画面とアプリケーションを Google で確認する必要があります。アプリが **[公開]** になっている、次のうち少なくとも 1 つが該当する場合、確認が必要です。

- プライベートにかかわるスコープや制限されたスコープがアプリで使用されています
- アプリの OAuth 同意画面にアイコンが表示されます
- アプリに多数の承認済みドメインがあります
- 以前に検証された OAuth 同意画面を変更しました

この確認には数週間かかる場合があります。進捗に関する最新情報はメールで通知されます。詳しくは、確認プロセスの [詳細](#) をご覧ください。

同意画面とアプリケーションを Google が確認する前でも、制限付きでアプリケーションをテストできます。確認前のアプリの動作の詳細は、 [こちら](#) をご覧ください。

Google の OAuth [に関するご意見やご要望があればお寄せください。](#)

OAuth 付与の制限

トークン付与レート

現在の 1 分あたりのトークン付与レート上限は 100 です。1 分あたりのトークン付与レートは、1 分ごとにリセットされます。現在の 1 日あたりのトークン付与レート上限は 10,000 です。1 日あたりのトークン付与レートは毎日リセットされます。

上限を上げる

1 時間6 時間**1 日**7 日30 日

10月 15, 2019 9:39

この期間のデータはありません

Copyright Diverta inc. All right reserved.

4

4. OAuth クライアント ID を作成する

- ① [認証情報]-[認証情報の作成]-[OauthクライアントID]の順で選択します。

The screenshot shows a web interface for API authentication. On the left, a sidebar menu under the heading 'API API とサービス' contains the following items: 'ダッシュボード', 'ライブラリ', '認証情報' (highlighted with a blue arrow), 'OAuth 同意画面', 'ドメインの確認', and 'ページの使用する契約'. The main content area is titled '認証情報' and contains a box with the following text: 'API にアクセスするには認証情報が必要です。使用する API を有効にしてから、必要な認証情報を作成します。API に応じて、API キー、サービス アカウント、または OAuth 2.0 クライアント ID が必要です。詳細については、[認証のドキュメント](#)をご覧ください。' Below this text is a button labeled '認証情報を作成' with a dropdown arrow. A dropdown menu is open, showing four options: 'API キー' (with a description: 'シンプル API キーを使用してプロジェクトを識別し、割り当てとアクセスを確認します'), 'OAuth クライアント ID' (highlighted with a grey background and a blue arrow), 'サービス アカウント キー' (with a description: 'ロボット アカウントによるサーバー間でのアプリレベルの認証を有効にします'), and 'ウィザードで選択' (with a description: '使用する認証情報の種類を決定するため、いくつかの質問をします').

- ① アプリケーションの種類はウェブアプリケーションを選択します。
- ② 認証済みのリダイレクトURLはRCMS管理画面に記載のURLを入力します。
- ③ 「作成」を押します。

[← OAuth クライアント ID の作成](#)

OAuth 2.0 プロトコルを使用して Google API を呼び出すアプリケーションでは、OAuth 2.0 クライアント ID を使用してアクセス トークンを生成できます。このトークンには一意の識別子が含まれています。詳しくは、[OAuth 2.0 の設定](#)をご覧ください。

アプリケーションの種類

- ☒ ウェブ アプリケーション
- ☐ Android [詳細](#)
- ☐ Chrome アプリ [詳細](#)
- ☐ iOS [詳細](#)
- ☐ その他

名前

ウェブクライアント

制限事項

JavaScript 生成元とリダイレクト URI のどちらか、または両方を入力します。 [詳細](#)

生成元とリダイレクト ドメインは、[OAuth 同意設定](#)で承認済みドメインのリストに追加する必要があります。

承認済みの JavaScript 生成元

ブラウザからのリクエストで使用します。クライアントアプリケーションの生成元の URI です。ワイルドカード (https://*.example.com) やパス (https://example.com/subdir) を含めることはできません。非標準ポートを使用している場合は、それを生成元の URI に含める必要があります。

https://www.example.com

ドメインを入力し、Enter キーを押して追加します

承認済みのリダイレクト URI

ウェブサーバーからのリクエストで使用します。ユーザーが Google で認証されるとリダイレクトされる、アプリケーション内のパスです。パスにはアクセス用の承認コードが付加されます。プロトコルを含める必要があります。URL フラグメントや相対パスは使用できません。パブリック IP アドレスは指定できません。

https://www.example.com

ドメインを入力し、Enter キーを押して追加します

作成 キャンセル

RCMS

記事 コンテンツ更新 コミュニケーション デザイン **サイト基本設定**

ホーム > サイト基本設定 > Google Analytics > 基本設定

アクセスデータ 基本設定

アカウント情報

🔔 『Google OAuth2.0認証情報』か『Google LoginID認証情報』のいずれかを入力し「接続」操作を行なってください。ログインに成功するとPropertyIDが選択できるようになるので、使用するPropertyIDを選択して下さい。
[マニュアルはこちら](#)

認証種別	<input checked="" type="radio"/> OAuth 2.0認証 <input type="radio"/> ログイン認証
GoogleClientID	<input type="text"/>
GoogleClientSecret	<input type="text"/>
GoogleRefreshToken	<input type="text"/>

🔔 GoogleアカウントのOAuth2.0に登録するRedirect URL
https://[REDACTED]/management/api_googleanalytics/google_setup/

+ 接続

5. クライアントID、クライアントシークレットを確認する

① 認証情報に作成したクライアントIDが表示されるので鉛筆マークを押します。



The screenshot shows the 'API とサービス' (API and Services) page in the Google Cloud console. On the left sidebar, '認証情報' (Credentials) is selected. The main area shows 'OAuth 2.0 クライアント ID' (OAuth 2.0 Client IDs). There is a table with one entry: 'ウェブクライアント' (Web client) created on '2019/10/16' of type 'ウェブアプリケーション' (Web application). A blue arrow points to the edit icon (pencil) in the actions column of this entry.

② クライアントIDとクライアントシークレットを確認します。



The screenshot shows the 'ウェブアプリケーションのクライアントID' (Web application client ID) page. At the top, there are links for 'JSONをダウンロード' (Download JSON) and 'シークレットをリセット' (Reset secret). The main content area shows the client ID and secret, both redacted with black bars. Two blue arrows point to these redacted fields. Below this, there is a '名前' (Name) field with the value 'ウェブクライアント'. Under '制限事項' (Restrictions), there are sections for '承認済みのJavaScript生成元' (Authorized JavaScript origins) and '承認済みのリダイレクトURI' (Authorized redirect URIs), each with a text input field and a 'ドメインを入力し、Enterキーを押して追加します' (Enter domain and press Enter to add) instruction.

Google OAuth 2.0 Client ID発行のサポートについて

Google側の仕様の変更により、本マニュアルとは異なる箇所がある場合がございますが、Google側の操作画面や手順については外部システムのため、サポートしておりませんので、Googleでご確認ください。